

情報ネットワークを身近に感じて活用できる教育活動を目指して

電子会議室・電子掲示板を活用した市内全小・中学校共同研究

埼玉県幸手市情報教育研究委員会 安藤康浩(埼玉県幸手市立栄第二小学校 教諭)

<http://www.geocities.co.jp/NeverLand/6005/>

キーワード：情報教育、学校間ネットワーク、グループウェア、電子会議室、電子掲示板、
共同学習、プレゼンテーション、テレビ会議、データベース

1 はじめに

1.1 背景

近年の社会における情報化の進展に伴い、学校教育においても情報化に適切に対応していくことが重要な課題となっている。本市ではコンピュータの導入を比較的早い段階から進め、現在では、中学校4校・小学校12校の児童生徒が授業の中で活用できるようになってきた。しかし、教職員の中から「市内他校がどんな実践を進めているのか知りたい。」「職員・児童生徒同士が交流できる場がほしい。」「インターネットの活用をどのように進めればいいのか教えてほしい。」といった要望が出てきた。そこで、グループウェア(ロータス・ノーツ)を使用した市内の情報ネットワークの構築と活用を考えていくことになった。

1.2 実践のねらい

情報ネットワーク(グループウェアソフト利用)の可能性として以下の4項目が考えられた。

(1) ネットワーク上の共有された空間では、参加者にそれまで不可能だった指導の知識に関する情報の共有をおこなえる機会が与えられる。

(2) 電子会議室・電子掲示板では、メッセージを記録し、蓄積することができる。

(3) 時間的、空間的な要因に制約されることなく、各教師・児童生徒の都合のいい時間に密なコミュニケーションを図ることができる。

(4) 様々な意見を得ることによって、指導に関する知識を明らかにし、異なる視点からの分

析を容易におこなうことができる。

上記のことから、構築する情報ネットワークは、情報の蓄積だけではなく、教師間・児童生徒間のコミュニケーションの場とする事を重視した環境を整えることにした。さらに、多様な実践を展開することによってネットワークを身近に感じて活用することができる人材を育成することをねらいとした。

2 企画の概要

2.1 実践企画

幸手市内全小中学校教職員及び児童生徒を対象に、次のような内容を企画した。

(1) 電子会議室の活用

- 1) 対教職員・・・市内共同学習のための学習指導案作成及び意見交換
・・・進路指導、生徒指導などの情報交換
- 2) 対児童生徒・・・テーマ毎のディベート
・・・共同学習テーマ毎の意見交換及び情報交換

(2) 電子掲示板の活用

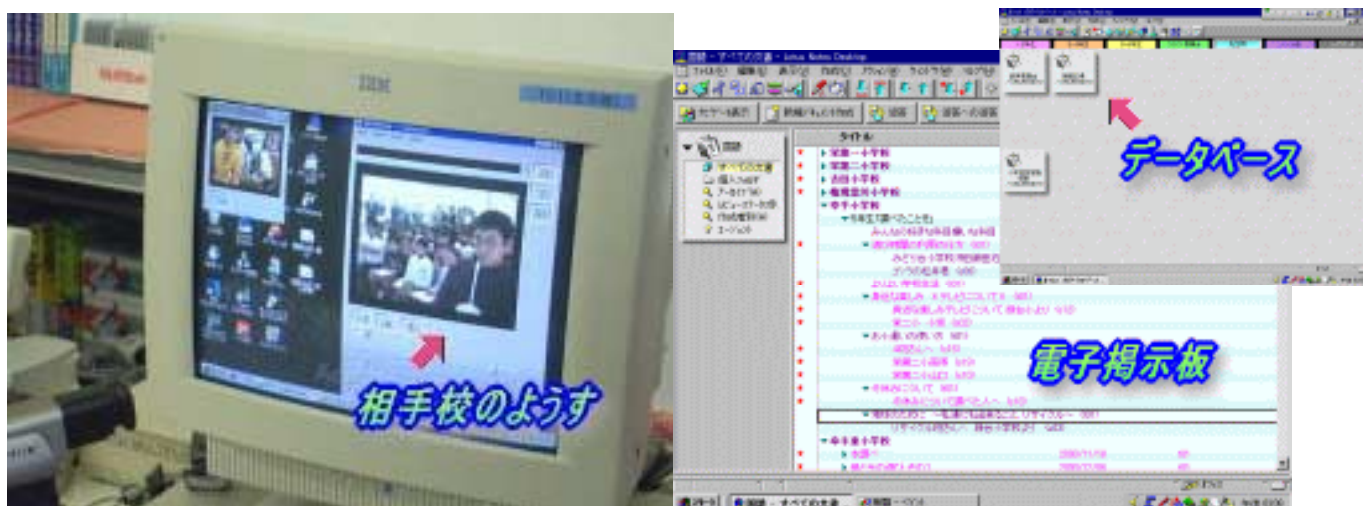
- 1) 対教職員・・・各校の研究授業指導案を登録し、データベース化
・・・市教育研究会の部会活動を掲載
・・・各校で活用できる学年だよりの雛形作成、登録
・・・市内で集計が必要な資料を掲載及びデータの収集(アンケートやスポーツテストなど)
・・・調べ学習の時間用にWebサイトのメニュー化(テーマ毎に整備)
- 2) 対児童生徒・・・教材のコンテンツ作成、登録、活用
・・・児童生徒の作品掲載
・・・クラブ、委員会の活動報告

2.2 ネットワーク構築と準備

7月から順次、市内共有サーバ及び各校のコンピュータにグループウェアソフトを導入した。8月には、市教委主催の夏季コンピュータ実技研修会で、グループウェアソフトの操作方法やインターネットへの接続方法を研修した。9月には、各校の情報(学校紹介、研究テーマ、授業日程、共同学習单元など)をデータベースに登録した。10月から12月末までの3ヶ月間試験的に運用し、活用を進めた。

2.3 活用実践とその様子

活用実践のすべてを紹介しきれないが、ここでは活発な活用が見られたデータベースについて報告する。



(1) 学校紹介データベース

児童生徒の自由なコミュニケーションの場として設定した。ここでは、各校の様々な施設や行事、活動の様子などを文書や画像・映像などで公開した。公開されたそれぞれの項目に自由に返事を書くことができるので、自校の情報を提供しながら、コミュニケーションを図ることができた。教職員の情報は、学校の特色を発信した内容が多かった。児童の関心が特に集まったのは、「自分の学級では今、こんなことが流行っています紹介」であった。このデータベースで児童間のコミュニケーション力が育てられる可能性を発見したのと同時に、自然にネチケットも身につ

けることができた。

(2) 学習指導案・教科別教材データベース

教職員が作成した指導案をデータベース化して活用するための場として設定した。市内各学校でおこなわれた授業研究会用指導案を積極的に提供していただき、共有できる教育情報として蓄積、活用した。指導案をそのまま活用することは、少なかったが自分が授業をおこなう時の参考になったという声が多く聞かれた。これまで、コンピュータに近づこうともしなかった先生にとって、身近な情報源となった。また、小学校3、4年生の社会科では副読本を使用しているが、このデータについても映像・画像ともに授業で大いに活用された。今後も必要に応じて、情報提供を呼びかけデータを蓄積し続けたい。さらに、教職員が授業に使用したコンテンツもいくつか登録されたことにより、授業でコンピュータ活用のきっかけとなった。今後もコンテンツの登録を増やしていきたいと考える。

(3) 学習交流データベース

教科の中で共同学習の単元を設けて、学習したことを発表したり、交流しあえる場として設定した。今年度は、幸手市内の小学校12校の5年生全員が国語科の「調査したことを みんなの読書生活(光村図書)」という単元で授業に取り組んだ。学習交流を進めることにより、児童の学習の場が広がっただけでなく、相手にわかりやすく伝えるための工夫が随所にみられ、国語科と情報教育の関係をあらためて考えさせられた実践となった。

3 まとめと今後の課題

ネットワーク構築によって、今まで近くて遠かった隣の学校の様子がわかり始めたことは大きな成果であった。しかし、今後も活用を続けながら解決していかなければならない課題もはつきりしてきた。

(1) コミュニケーションを意識したネットワークづくり

作品や情報を貼り付けるだけのデータベースに終わらせないために、様々な仕掛けや工夫が必要であった。情報の向こう側には、必ず相手がいることを意識して活用を心がけていかなければ情報リテラシーは育たない事を痛感した。

(2) 知識と技術を備えた人材の確保と育成

よい機器があるだけでは、それを十分に活用することはできない。今回のネットワーク構築

も専門的な知識と技術を持った方のお力添えをいただいたことで、なんとか実現することができた。ネットワークの活用を続けるには、人材を確保すること体制を整えること、人材を育成する努力をすることが大切であった。使える人だけが活用するネットワークではなく、誰もが身近に感じて活用できるネットワークへ育てていきたいと考える。